

● 経常研究

ブルーベリー幼木期の生育促進技術

平成20～22年（3年間）

中央農業試験場

共同（協力）機関（北海道 空知総合振興局 空知農業改良普及センター北空知支所）

Abstract 概要

北海道内でも栽培面積が増加傾向にあるブルーベリーは、苗木定植時以降数年間の栽培管理がその後の生育と収量性に大きく影響するような作物ですが、北海道での苗木定植後の栽培管理方法については確立されておりませんでした。新規導入地などで、栽植した樹の生育が遅れたり停滞するような事例も見られていることから、初期生育促進・早期成木化につながるような幼木期の栽培管理条件について検討いたしました。その結果、ブルーベリーを新規に栽植する際には、①挿し木苗あるいは購入した小さな苗を、20～30cmサイズのポットで、ピートモスを圃土として、大苗の養成を行い、②100L以上の植穴に、圃土の全量をピートモスとして圃場定植することで、定植後の生育に促進効果があることが明らかになりました。この他、土を乾燥させないことや、株元にマルチを敷くこと、定植後2年間は花を摘んで結実させないことなどに注意すれば、ブルーベリーの良好な生育が期待できます。

Results 成果

1 大苗の育苗方法の検討

■苗木定植後の初期生育について、樹冠容積（地上部の枝が占有する容積：樹の大きさの指標）の**大きな苗**を定植するほど初期生育が促進されることがわかりました。

そこで、大苗の育苗方法について検討したところ、**育苗用土**はピートモス単用とし、大きめの20～30cmサイズの**育苗ポット**を用いて苗養成すると、灌水を十分に行えば、新梢が良く伸長した大きな苗ができることがわかりました。



ピートモス .. 鹿沼土	1 .. 0	2 .. 1	1 .. 1	0 .. 1
--------------------	--------------	--------------	--------------	--------------

図-2 育苗土別の鉢上げ1年目秋までの苗木の成長の様子

2 苗木定植時の植穴の検討



1 .. 1	ピートモス .. 畑土	1 .. 0
--------------	-------------------	--------------

図-1 植穴用土別の定植3年目秋の樹姿

■定植時の植穴と初期生育の関係について調査したところ、**植穴容量**は一般的な48L（40cm四方×深さ30cm）から108Lや216Lへ大きくし、**植穴用土**を一般的な畑土とピートモスの等量混合用土から全量ピートモスとすると、樹体生育や定植3年目の初結実収量で優ることがわかりました。

植穴を大きくし、ピートモス使用量も増やした場合、定植時に必要な資材費は増加しますが、これに見合った生育促進効果が得られます。

Results 成果

3 北海道版「ブルーベリー幼木期の栽培管理指針」の作成

	ポイント	備考	
育苗	鉢上げ時期	挿し木翌年の春	
	ポットサイズ と育苗期間	20～30cmポットで1年以上育苗して、大苗を養成する	購入苗などで苗が小さい場合は、大きなポットに移植し、さらに1年以上育苗して、大苗を養成する あらかじめ十分に湿らせてから使用する
	用土	ピートモス単用	
	灌水	表面が乾き始めたら適宜灌水する	
	施肥	用土1L当り N(アンモニア態窒素),P,K=100mg程度を施用	葉色が退色してきたら、追肥を行う
	場所	風当たりの強い場所は避ける	露地、ハウスどちらでも可
	越冬	露地で越冬させる場合には、 <u>地面に横倒ししておく</u>	野鼠の被害に注意する
定植	定植時期	春先の休眠期	秋植えは凍害に遭う危険性がある
	栽植距離	株間1.5m前後、通路幅2.5m程度	
	土壌	極端に排水性、保水性の悪い土壌は避ける	
	植穴容量	100L以上(80cm四方×深さ30cm以上)	
	用土	ピートモスを植穴の全量施用	あらかじめ十分に湿らせてから使用する 樹冠容積が 0.1m³(例:高さ80cm×幅40cm四方)～0.4m³(例:高さ95cm×幅65cm四方)程度の大きさを目安とする
	苗木	できるだけ生育が良好で大きな苗を定植	
	支柱	根張りが悪く、不安定なので、支柱を立てて結束する	
被覆	株元にマルチを敷く(稲殻、わら、おがくず等)	乾燥防止と雑草対策のため	
圃場管理 (幼木期)	灌水	株元が乾燥しないよう、高温・乾燥時には適宜灌水する	特に定植1年目や干ばつ気味の年には注意する 「北海道施肥ガイド2010」参照
	施肥	北海道施肥標準による	
	防除	カイガラムシ類やシヨウジョウバエなどが発生したら防除を行う	
	剪定	定植後2年間は花芽を切除して、結実させない	樹体の養成を優先させるため 枝が混んできたら、地際から間引く
	越冬	幼木期には、その他の剪定はしなくて良い 多雪地帯では、縄などで冬囲いを行う	積雪による枝折れ防止のため

注) **赤字**は特に重要なポイントを表し、**下線部**は本試験で検討した結果推奨される新しい栽培技術である。細字は、従来より推奨されている栽培方法について整理して記載した。

この指針は、ノーザンハイブッシュブルーベリーの品種を北海道で栽培する際に適用される。□

幼木期とは、圃場定植3日目ごろまでの樹体養成期間を指す。

ピートモスは、pH未調整品(pH4.3～4.8)の、A級またはB級を使用する。

苗の増殖方法については、「簡易さし木繁殖マニュアル」(2004年 中央農試：普及奨励事項)を参考とする。□

Activities 業績

【研究成果入手先】

道総研農業研究本部の「農業技術情報広場」で、本成果に関する概要(pdf)を公開。

<http://www.agri.hro.or.jp/center/kenkyuseika/iippan23.html>

Dissemination 普及

■本成果は、中央農業試験場研究員および道内各地の農業改良普及センターを通じて、ブルーベリー栽培講習会や栽培相談の対応場面において活用される。

Contact 問い合わせ

農業研究本部 中央農業試験場
作物開発部 作物グループ

【電話】 0123-89-2285(直通)

【メール】 central-agri@hro.or.jp

【ウェブ】

<http://www.agri.hro.or.jp/center/index.html>